

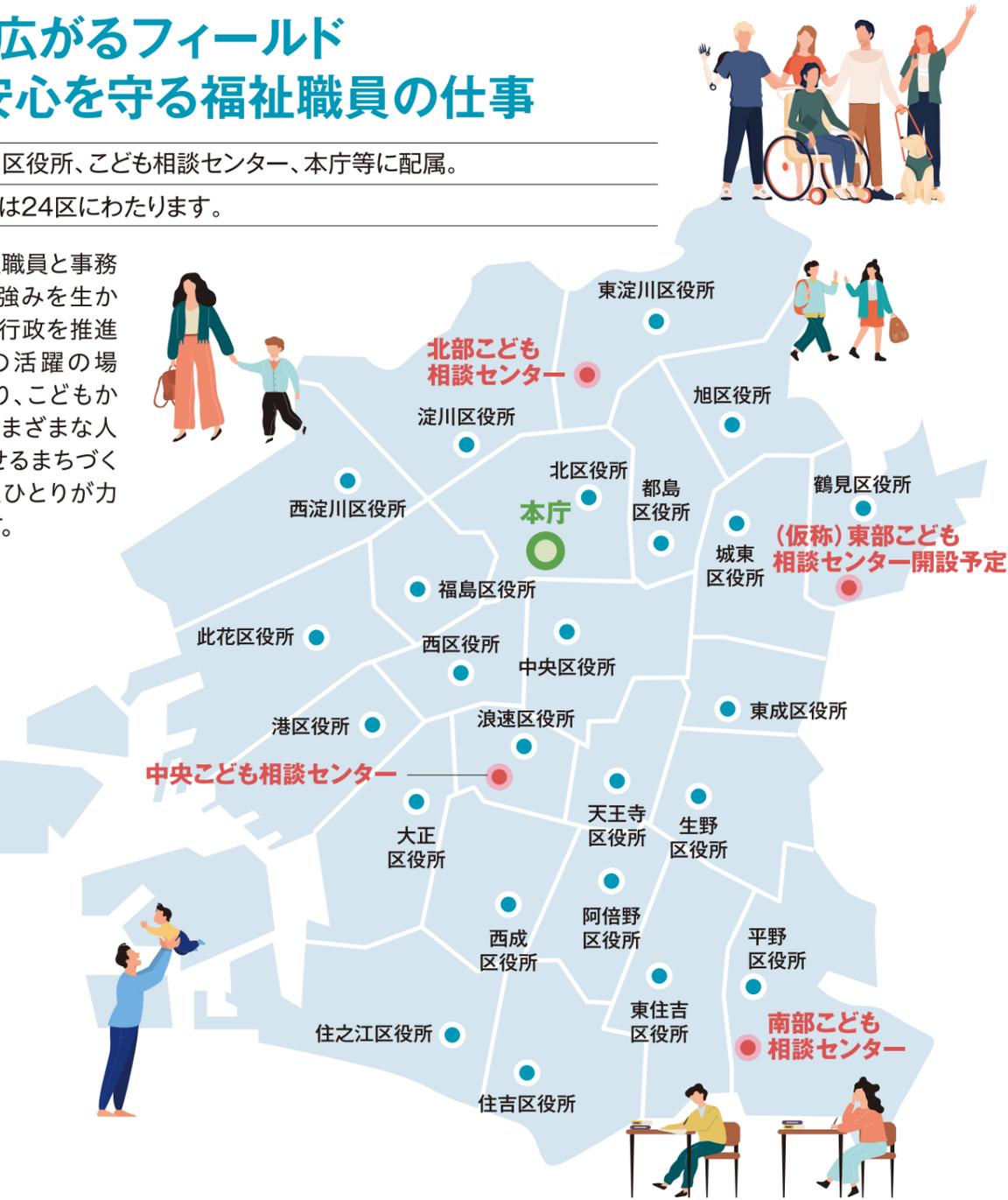
# 24区に広がるフィールド 市民の安心を守る福祉職員の仕事

福祉職員は主に、区役所、こども相談センター、本庁等に所属。  
活躍のフィールドは24区にわたります。

大阪市では、福祉職員と事務職員がお互いの強みを生かし、協力して福祉行政を推進しています。その活躍の場は、24区に広がり、こどもから高齢者まで、さまざまな人が安心して暮らせるまちづくりのために、一人ひとりが力を発揮しています。

## 福祉職員のフィールドや役割を動画でcheck!

大阪市福祉職員のフィールドや役割を、人材育成を軸に、分かりやすくお伝えします。



## 主な所属先



区役所 24区  
(保健福祉センター)

こどもから高齢者まで  
さまざまな相談に応じる

市民に近い行政の窓口として、高齢者や障がいのある方、子育て世帯など、一人ひとりの状況に合わせて支援を考えます。



こども相談センター 3か所  
(一時保護所を含む)

こどもとその家族の  
暮らしを支える

家庭等からのこどもに関する相談に応じ、虐待・養育・発達などの課題に対して支援を行います。



本庁  
(福祉局、こども青少年局等)

国や現場と連携し  
福祉の土台をつくる

国や関係機関との調整や施策の立案を行う等、福祉的な視点から市全体の制度づくりや運営に携わります。

# 数 字で見る 大阪市福祉職員

01  
仲間は  
1,300人  
以上



区役所、こども相談センター、本庁等の幅広い職場に仲間!

いろんな職場に経験豊富な先輩がいるので、初めての業務で戸惑った時や困った時は、すぐに相談ができます。支え合いながら一緒に成長できる環境です。

02  
20~30代が  
5割以上



大阪市では、たくさんの若手職員が活躍中

若手職員がどんどん挑戦できる雰囲気が魅力。40~50代の経験豊かな職員も多く、世代のバランスがとれた職場です。多様な視点が集まることで学びの幅が広がります。

03  
配属先は  
30か所以上



多様な現場で福祉職員としてのキャリアを積む

区役所24か所やこども相談センター、本庁の他、事業所など多くの職場があります。ジョブローテーションでさまざまな地域や業務に関わることで、視野が広がり成長できます。

04  
職員男女比  
4:9



女性が多く活躍!安心して長く働ける環境

女性の比率が高く、ライフステージに合わせながら長く働ける環境です。もちろん男性職員もさまざまな分野で活躍中。ぜひ一緒に、大阪の福祉をより良いものへ発展させていきましょう。

05  
生活保護受給率  
約4.6%\*



支援を必要とする多くの市民に求められる仕事

大阪市の生活保護受給率は政令指定都市の中で最も高い。そのため、生活に不安を抱える方を支えるケースワーカーの役割は大きく、福祉職員の力が求められています。

\*令和7年3月実績

06  
大阪市福祉関連  
予算1兆円\*以上



大きな予算を預かり大阪市の未来に貢献するやりがい

福祉費やこども青少年費を合わせると、市全体予算の約半分。大きな福祉行政に携わり、大阪の未来に貢献するという使命のもと、やりがいを持って働くことができます。

\*令和7年度予算

07  
年間休日  
約120日



オンオフのメリハリをつけながら頑張れる!

年間休日は土日祝日と年末年始を含めて約120日。年次有給休暇20日に加え、夏季休暇5日や結婚休暇、子の看護休暇等の特別休暇も充実しており、休みを取りやすい雰囲気があります。

08  
男性育休取得率  
9割以上\*



出産・育児をサポートする環境を整備

男性の育児休業等取得率は91.8%。男性職員の育児参加を促すとともに、女性職員の活躍推進にも取り組んでいます。引き続きワークライフバランスの実現に向けた取組を推進します。

\*令和6年度実績